備　前　市　事　務　事　業　評　価　シ　ー　ト

（平成22年度事業）

事業の概要

事業開始年度				根拠法令・例規等	
総合計画	大項目	基本目標	02	健康でやさしさあふれるまちづくり	
	中項目	基本施策	01	やさしさあふれるまちづくり	問合先 担当課（室） 社会福祉課
	小項目	施策	03	障害者（児）福祉	職・氏名 障害者福祉係長・大道健一
事務事業名			18	市民ふれあい福祉まつり事業	電話 64-1824
					このシート作成に要した時間 2.5 時間

Plan

事業の目的

対象（誰・何に対して）	市内外を問わず、だれでも。
目的（何のために）	障害者や高齢者を含む誰もが社会参加できる福祉のまちづくりを推進する。
事業の意図する成果（どのような状態にしたいのか）	市民ふれあい福祉まつりに参加した人たちが一日楽しく過ごせるイベントにするとともに、障害者の方々の社会参加の推進に寄与したい。

Do

事業の実績

目的を達成するため実施した事業 細事業名	事業の説明	優先度
市民ふれあい福祉まつり事業	岡山県福祉のまちづくり条例により高齢者や障害者を含む誰もが参加できる福祉の松づくりを推進するため、啓発ポスター・標語の募集、表彰。金婚該当者の表彰。老人福祉・障害者福祉功労者等の表彰。また、模擬店、バザー等を開催する。	○

決算額 事業費等		単位	平成20年度実績		平成21年度実績		平成22年度実績	
事業費	直接事業費	千円	741		510		460	
	必要人員 人件費		0.14人	1,253	0.12人	1,152	0.17人	1,666
	事業費計		1,994		1,662		2,126	
財源	国県支出金	千円	394					
	受益者負担							
	繰入金							
	市債							
	その他（　）							
	一般財源		1,600		1,662		2,126	
受益者負担比率		%	－		－		－	

結果指標 結果指標名	単位	平成20年度実績	平成21年度実績	平成22年度実績
	説明	市民ふれあい福祉まつりに参加した人数		
結果指標量	事業	2,000	2,100	2,200
対前年比	%	－	105.0%	104.8%
活動コスト	円	1,994,000	1,662,000	2,126,000
単位当たりコスト		997	791	966

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性を評価

事業の成果

成果指標名	年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度目標値
市民ふれあい福祉まつりの参加者数	目標値（A）	2100	2200	2300	2350
	実績値（B）	2000	2100	2200	到達目標値
	達成率（B/A）	95.24%	95.45%	95.65%	

成果指標設定の考え方・式や説明

市民ふれあい福祉まつりの参加者数を増やしていきたい。

Check

事務事業の評価

5段階評価（A～E）のランク基準　A：高い　B：やや高い　C：普通　D：やや低い　E：低い

妥当性の評価

- 市の関与の妥当性
  - ☐ 市が実施するよう法令で義務づけられている
  - ☐ 法令で義務づけられてないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす
  - ☑ 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない
  - ☑ 事業の内容が一部の受益者に偏っている
  - ☑ 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている
  - ☐ 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である
- 必要性
  - ☐ 事業開始当初の目的から変化してきている
  - ☐ 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている
  - ☐ 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある
- 市民ニーズ
  - ☐ 市民・団体等から要望・要請が強い

妥当性評価 <A～E>：**C**

効率性の評価

- コスト
  - ☐ 単位当たりコストは前年度と比較して改善している
  - ☐ 実施方法（派遣・委託含）を見直すことでコストを下げる余地がある
  - ☐ 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある
  - ☑ コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい
- 手段
  - ☐ 受益者負担率は適正である
  - ☑ 受益者負担率を見直す余地がある
  - ☐ サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない
  - ☑ 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある
  - ☐ 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている

効率性評価 <A～E>：**C**

有効性の評価

- 目的達成度
  - ☑ 成果指標の設定は適切である
  - ☐ 成果指標の到達目標値は達成できそうである
  - ☐ 成果指標達成率は前年度と比較して向上している
  - ☐ 成果指標達成率は80%未満となっている
  - ☐ 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない
- 市民参画度
  - ☐ 法定事務 ・ 内部管理事務　であり成果は求めにくい
  - ☑ 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している
  - ☐ 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している

有効性評価 <A～E>：**C**

進行年度（H23年度）の改革改善内容

状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
			○				

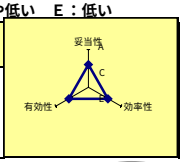
説明：こども応援フェスタと同日開催を予定しており、経費の削減を図るとともに相乗効果による多くの来場者を見込んでいる。

総合評価

5段階評価（A～E）のランク基準　A：高い　B：やや高い　C：普通　D：やや低い　E：低い

徐々に参加者も増えており、多くの団体の協力により盛大なまつりに成りつつあり、今後さらに多くの人たちに参加してもらえるまつりとなるよう事業内容の充実を図りたいが、経費が不足しており中々充実した事業とできていない。

評価区分 <A～E>：**C**



Action

平成24年度の方向性・取組目標

方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					

取組目標：現状維持で進めていきたいが、今後事業内容を見直しながら、最小の経費で最大の効果が得られるよう実施していく。